

林木遺伝資源情報

第3号 - 1 2003.3
独立行政法人 林木育種センター



国指定天然記念物の樹木の収集保存シリーズ No.5

北陸・近畿・中国・四国地方における国指定天然記念物の収集・保存

林木育種センター 関西育種場 宮下 祐子

1 保存現況

国指定天然記念物は文化財保護法に基づき指定され、同法の中で「学術上価値の高いもの」とされています。これらの樹木は群落や単木で指定され、それぞれが持つ貴重な特性を利用するため、1966年から収集、増殖、保存を進めてきました。

関西育種場では、表-1に示すように関西育種基本区内19府県の国指定天然記念物144件のうち、単木指定のものを中心にこれまで63件を収集し、44件を定植保存しており、11件が養苗中です。なお、8件が増殖中に枯損しています。

収集・保存したものを樹種別にみると、スギ、イチョウ、ビャクシン、カヤ、トチノキ、ケヤキ、カツラなど16種であり、現在養苗中のものを含めると

表-1 収集・保存件数

府県名	指定	収集	保存	養苗中
富山県	5	2	2	
石川県	10	5	4	1
福井県	6	2	2	
三重県	10	4	3	
滋賀県	6	5	5	
京都府	2	2	1	
大阪府	4	4	2	
兵庫県	11	7	4	1
奈良県	12	4	2	1
和歌山県	5			
鳥取県	9	2	1	1
島根県	8	4	4	
岡山県	3	1	1	
広島県	5			
山口県	18	9	6	2
徳島県	8	1	1	
香川県	7	3	3	
愛媛県	7	4		4
高知県	8	4	3	1
計	144	63	44	11

21種となっています。増殖中に枯損したものの中にはブナやムクノキなど無性繁殖が困難とされるものもあり、保存件数を拡大するに当たっては、これらの樹種のつぎ木等の増殖技術の研鑽が必要です。

2 特徴

関西育種場内には東北地方から九州までの各地で指定された国指定天然記念物のスギを集めた保存園があります（写真-1）。



写真-1 スギ国指定天然記念物の保存園

この保存園のスギは大部分がつぎ木により増殖されたクローンです。当時の担当者のお話では、県や他の育種場からも協力を得て、穂木や増殖した苗木を収集したそうです。1966年から収集を開始し、1972年までに69クローン、さらに1984年に2クローンを追加植栽して、現在は枯損消滅したクローンを除き70クローン合計283本を保存しています。

平成13年度には、当保存園のスギ天然記念物のクローンについて、樹体の形状や自然着花性などの特性を調査しました。平成16年度には調査データを分析・評価し、各スギ天然記念物の特性を公表する予定です。

3 収集保存した国指定天然記念物

[大山のダイセンキャラボク純林]

本シリーズNo 1で紹介されています。鳥取県西伯郡大山町の大山頂上付近の群落で、特別天然記念物にも指定されています。

1994年に穂木を収集してさし木増殖したものが、現在では30～80cmに成長しました。50クローンを保存しています(写真-2)。



写真-2 保存園のクローン

[平松のウツクシマツ自生地]

滋賀県甲賀郡甲西町平松の美松山に自生する特有の形をしたアカマツの群生地です。多数の幹が根元付近からほうき状に立ち、「多行松」とも呼ばれ、大変美しいマツです(写真-3)。現地ではマツノザイセンチュウによる被害を受け、保護会によって薬剤注入などの保護対策が施されています。



写真-3 自生地

写真-4 保存園

1978年に20個体のクローンを保存しましたが、現在16クローン30本を保存しています(写真-4)。昨年、滋賀県森林センターが、この特異な形態がメンデルの法則にしたがって劣性遺伝することを明らかにしました。

[宝生院のシンパク]



写真-5 宝生院のシンパク



写真-6 保存園

香川県小豆郡土庄町の宝生院にあるビャクシンで、幹の根元は空洞になっています。樹齢は1500年以上と推定され、ビャクシンとしては日本で最大のものと言われており、特別天然記念物にも指定されています(写真-5)。

1995年に穂木を収集し、さし木増殖して保存しています(写真-6)。

[建屋のヒダリマキガヤ]



写真-8 保存園

左：写真-7
建屋のヒダリマキガヤ

ヒダリマキガヤは、カヤの変種で宮城、滋賀及び三重県にも希産します。種子の外殻の線が左巻きの波紋になっているという特異な形質を持っています。兵庫県養父郡養父町にあるこの指定木は、雌株で多くの種子をつけます(写真-7)。

1995年と1996年に穂木を収集しつぎ木増殖して保存しています(写真-8)。